

2024年度FD活動報告書

2025/3/31

共通教育センター

伊藤 栄一郎

2024年度の共通教育センターのFD活動では、全学のFD方針に基づき、以下の取り組みを中心に対応した。

1. 105分授業への対応

2025年度から始まる授業105分化のため、まず教員の準備に関するアンケート調査を実施した。ほとんどの教員が問題意識を持っているものの、具体的な準備については十分ではないという回答であった。そこで、共通教育センター内で105分化に関するFDワークショップを行った。教員にとっては授業時間が15分延びることより授業回数が2回減ることの方が影響が大きいと思われたため、現状の担当科目的授業計画を13回に設計しなおすことを念頭においたワークショップとした。ワークショップでは、どのような観点で15回を13回に圧縮したかを教員間で共有しあったあと、シラバス案を作成するという内容であった。

評価

教員に対して早い段階で105分化の意識付けを行うことで、余裕を持って2025年度のシラバス作成につなげることができた。また、教員間でシラバスに関する知見を共有し合い、相談しやすい環境を作ることができた。一方で、当初予定していた授業デザインシートの作成には至らなかった。

2. 基礎的学習スキルの育成

共通教育センターでは学生が汎用的なスキルを身につけられるようにするために、言語スキル科目群およびICTスキル科目群において授業内容を改善することを目的にFD活動を実施した。

言語スキル科目群では、初年次教育と専門教育との接続を目的として、各学部の問題意識や目標、授業方法や評価に関する情報共有を行った。具体的には7月に全学FD研修会として『高・大・社接続のための「言語技術」教育の実践報告』を行い、8・9月には健康栄養学部のFD活動に陪席したりFDワークショップを実施した。1月には法学部とFDワークショップ『4年間で学生の「言語スキル」を伸ばすためにー初年次「言語技術Ⅰ・Ⅱ」と専門科目の連携についてー』を実施して研修や意見交換を行った。

ICTスキル科目群では、授業時間の105分化に加えてPC実習室の廃止や新教育課程への対応のため、初年次科目を大幅に変更することとなった。特にBYOD（学生によるPCの持ち込み）により授業実施方法が変わるため、その準備となるFD活動を実施した。具体的には、前期「ICTリテラシーA」において次年度に向けた授業改善手法を提案・実施し、その結果を共有した。その結果を踏まえて次年度からの新科目「ICTリテラシー」のシラバスを作成した。

評価

言語スキル科目群では複数の学部とのFD活動を通じて、互いに情報の共有を図ることができた。同時に意識の違いや課題も明確になり、次年度以降のFD活動へと繋げることができるようにになった。ICTスキル科目群では、PC実習室の廃止とBYODによる問題点を実践活動を通じて具体的に確認することができた。

3. その他のFD活動

センター会議後のFD活動として「キックオフワークショップ」「リフレクションシートの書き方ワークショップ」「GECは何を目指すかワークショップ」「FD座談会」など、授業改善・組織改善につなげるための具体的な活動を行った。また、所属長・科目群主任による授業観察にあわせて、教員相互の授業観察を自由に行うようにした。また、学事課との共同で、科目群主任の担当授業に学事課職員を招いて授業観察を実施した。

評価

センター会議後のFD活動は、カジュアルな雰囲気により相互に話しやすい環境で教員相互の交流を行うことができるとともに、教員の授業改善の意欲を高めることができた。ワー

クショップの実施によって、新たな課題も認識することができた。授業観察では従来一方通行だったものが、双方向に実施することができた。学事課職員による授業観察では、教員とは異なる視点からの指摘を得ることができた。

以上